

新年のあいさつ

野々市市長
栗 貴章

新年あけましておめでとうございます。平素より市政の推進に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年11月11日に、本市は市制施行10周年を迎えます。市制施行以来、市民の皆様と行政が力を合わせて、共にまちを創り上げる「市民協働のまちづくり」を進めてまいりました。市民の皆様に自由な発想や提案をいただくことで、市民自らが主役となり、さまざまな舞台で活躍する姿が見られるようになりました。10年目を迎え、市制施行時にまいた市民協働の種が着実に成長し、大きな実を結んでくれていることを実感しています。

本市では、昭和49年にツバキを町花木に指定して以来、ツバキをまちづくりの象徴としてまいりました。ツバキの持つ十の美德になぞらえ、第一次総合計画における将来都市像も「人の和で 椿十徳 生きるまち」と定めております。

昨年3月、そのツバキを味わい楽しむことが出

来る「愛と和 花のギャラリー ののいち椿館」と「椿山」を含めた野々市中央公園が、日本で9番目、本州では初となる「国際優秀つばき園」に認定されました。その名に恥じぬよう、さらなるツバキの魅力、そして野々市の魅力を発信し、皆様に愛される場所となるよう努めていきたいと思っております。

市制施行とともに策定した第一次総合計画も総仕上げの年を迎えます。最終年にあたり、将来都市像の実現に向けて、これまで進めてきたまちづくりを一層推進するとともに、引き続き、全ての年代の皆様にも本市への愛着と誇りを持っていただけるよう、第二次総合計画の策定にも取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で、年明けとなりましたが、大切なことは、日々の感染者数に一喜一憂せず、ウイルスのリスクを正しく理解し、必要な対策と行動をしていくことではないでしょうか。人を思いやり、助け合い、支え合うことで、この難局を必ず乗り越えられると信じています。

結びに、皆様にとりまして、本年が明るく素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。



- ①国際優秀つばき園に認定された野々市中央公園
- ②約300種、700本のツバキを鑑賞できる「ののいち椿館」
- ③約200種、800本の地植えのツバキと白山も眺望できる「椿山」